

事業コード	H25-建-継-14		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・ダム・海岸班 (tel) 018-860-2514
路線名等	一級河川 太平川		担当課長名	河川砂防課長 齋藤 春美
箇所名	秋田市栖山		担当者名	副主幹(兼) 班長 川村 潤
総合計画との関連	政策コード	11	政策名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

## 1. 事業の概要

事業期間	S35 ~ H31 (60年)		総事業費	114.4億円	国庫補助率	1/2
事業規模	計画延長L=7,400m 計画高水流量Q=420m <sup>3</sup> /s					
事業の立案に至る背景	太平川は、秋田市中心部にある栖山地区から広面地区にかけて流下し、旭川に合流する河川である。平成14年8月豪雨の際には、局部的に狭小な箇所の水位が危険な状態まで上昇し、それに起因した内水被害が発生している。人家の集中している箇所であることから、甚大な洪水被害が想定されるため、治水安全度の向上を目指している。					
事業目的	地域住民の生命と財産を守るため、河積確保や湾曲河道是正等の河川改修を実施して浸水被害の解消を図り、安全で安心できる地域づくりを推進する。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		11,438,100	11,438,100	0	
	経費 内訳	工事費	7,504,600	7,504,600	0	
		用補費	2,730,800	2,730,800	0	
		その他	1,202,700	1,202,700	0	
	財源 内訳	国庫補助	5,719,050	5,719,050	0	
		県債	5,147,000	5,147,000	0	
		その他	0	0	0	
一般財源		572,050	572,050	0		
事業内容		築堤工 護岸工 橋梁工	築堤工 護岸工 橋梁工			
事業の進捗状況	全体計画 114.4億円 平成24年度末時点投資額 54.7億円 進捗率 47.8%					
事業推進上の課題	太平川沿川に植樹されている桜木の保全をはじめとした、沿川住民の生活環境への配慮が必要とされている。					
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」において、5つの戦略を支える横断的取り組み(4)社会資本整備の推進の中に、「水害・土砂災害への対応力強化」が位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	秋田市街地を貫流する河川であるため、現河道を越水した場合には甚大な浸水被害が予想される。平成14年豪雨では床上被害が発生していることから、早急な改修が必要である。県全体の予算の制約に加え、本川旭川に集中投資をしており、事業が長期化している。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川整備率=改修延長/要改修延長				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無	
	目標値 a	45.2 %	データ等の出典		県 河川砂防課調べ	
	実績値 b	45.5 %				
達成率 b/a	100.7 %	把握の時期		平成25年 3 月		

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	住宅が密集する地域であり浸水想定範囲が広いことから、浸水が想定される家屋数も4,400戸と非常に多い。また、太平小学校や城東中学校等の教育機関、城東消防署等の重要施設も浸水の恐れがあることから、河川改修の必要性が高い。	30点
緊 急 性	現況河川の流下能力が低く、河積が狭小であり、平成14年豪雨により浸水被害が生じている。また、当該区域は重要水防区域に位置付けられていることから、河川改修の緊急性が高い。	10点
有 効 性	現川改修であることから経済的に有利であり、現況の流下能力が被害発生の原因であり河道拡幅等による治水効果の発現が見込まれるため、有効性が高い。また、沿川の桜並木を保全した計画とするなど、親水性の向上を図っている。	15点
効 率 性	事業の費用対効果は2.06であり、効率性は高い。また、排水樋管や橋梁の統廃合、建設廃材の仮設材等への有効利用、河積断面の見直しによる家屋移転の最小化などにより、コスト削減に努めている。	15点
熟 度	近年洪水被害が多発していることから、地域からは早期完成を求められている。また、河川環境に対して沿川住民が強い関心を持っているため、低騒音・低振動・排ガス対策型の建設機械の利用や、植生の回復が見込まれるブロック等の使用等により、現況河川環境の維持に努めている。	20点
判 定	ランク ( <input checked="" type="radio"/> I <input type="radio"/> II <input type="radio"/> III ) 地元からの要望が高く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、本事業は高く評価できる。	90点
総 合 評 価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト削減に留意しながら、事業を継続する。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H25-建-継-14 )  
箇所名 ( 秋田市榎山 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	浸水戸数	50戸以上	10	10	
		49～10戸	7		
		10戸未満	3		
	浸水面積	60ha以上	10	10	
		59～10ha	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	5	
		2～1施設	3		
		無し	0		
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み	5	5	
協議中であるが特段問題ない		3			
策定に着手していないが予定がある		1			
予定無し		0			
計		30	30		
緊急性	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	7	
		40～59%	7		
		60%以上	5		
	重要水防地域	評定基準区分A	5	3	
		評定基準区分B	3		
計		15	10		
有効性	安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	
		親水性は現状と変わらない	0		
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	3	
地域開発の計画がある		1			
計		0	15		
効率性	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	
		1.0未満	0		
	該当項目数	3項目以上	5	5	
		2項目	3		
		1項目	1		
		無し	0		
当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5		
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
計		15	15		
熟度	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	5	
		参画している	3		
		参画していない	0		
	進捗率	計画より進捗している	10	5	
		概ね進捗 (90～100%未満)	5		
		計画より遅れている (90%未満)	3		
	環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	5	システム=秋田県公共事業環境配慮システム
システムでの環境配慮事項が1～2事項		3			
システムでの環境配慮事項がない		0			
計		25	20		
合計			100	90	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		